

まえがき

ここに、2018 年度における当研究所の活動実績をまとめた年報 51 号を発刊する運びとなりました。

2018 年 3 月～5 月に沖縄で海外の観光客の持ち込みによる麻しんのアウトブレイクが問題となりました。さらに 2018 年 7 月下旬頃から関東地方を中心に風しんの患者数の報告が増加しました。麻しんや風しんの疑い患者が出ると、抗体検査陽性の結果を待って、届出がされることがあります。抗体検査の結果が出てから遺伝子解析用の検体を採取すると、遺伝子が検出されない場合があります。医師会の先生には臨床症状や渡航歴、接触歴等から麻しんや風しん等を疑った場合、抗体検査の結果を待つことなく、保健所へ相談するようお願いしています。

2019 年 9 月 20 日にラグビーワールドカップ 2019 日本大会が開幕し、日本チームの活躍に日本中が盛り上がっています。2020 年はいよいよ東京オリンピック、パラリンピックが開催されます。今後、ますます訪日外国人が増加し、感染症の発生リスクの増大が懸念されます。海外からの新興・再興感染症に対応するためには、普段から麻しんや風しん等の対応ができていく必要があります。臨床の先生が届出対象の感染症を疑い、早期に保健所に届け出ることにより感染症の発生を探知し、衛研で病原体検査を行い、行政とともに感染症の拡大を防止する必要があります。平成 31 年 4 月から感染症発生動向調査の機能強化のため、疑似症サーベイランスが見直されました。原因不明の感染症に対応するためには、地域の関係機関の日頃の連携体制、自治体間の情報共有が大事です。

2018 年 12 月 1 日に気候変動適応法が施行になりました。2018 年の夏は熊谷市で観測史上最高の 41.1℃を記録し、2019 年 9 月の台風 15 号は千葉県に大きな被害をもたらし、10 月の台風 19 号ではこれまでにない短時間の豪雨により多くの河川が氾濫し、甚大な被害が発生しました。テレビの映像を見ると、これまでの台風の被害とは次元が違う感じがします。日常生活を取り戻すには時間がかかると思いますが、一日でも早い復興を願っています。今後も増加するであろう局地的豪雨、台風、河川の氾濫等、地球温暖化への対策が急がれます。

群馬県衛生環境研究所は、地域の生活環境や県民の健康を守るため、日々活動しています。引き続き、関係機関と連携しながら、頼りにされる研究所を目指して職員一同努力して行きますので、皆様方のご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

2019 年 10 月

群馬県衛生環境研究所長 猿木信裕